



研究テーマ

どの子も「わかる」「できる」喜びを実感し、自分から学びに向かう子供の育成
～ ユニバーサルデザインの視点に基づいた実践を通して ～

○研究のねらいと研究内容

学級では子供たちがみんな同じように席に座り、同じように授業を受けています。しかし、一人ひとりに目を向けると、様々な理由で同じように学習に向かうことが難しい状況にある子供たちがどのクラスにもいるのではないのでしょうか。

それらの子供たちが抱える難しさは多様ではありますが、どの子にも共通して言えることは、毎日の授業が「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という強い思いを持っているということとは皆共通していえることでしょう。

学校で過ごす6割の時間である授業を、様々な「困り感※」をもつ子供たちの「わかった」「できた」に少しでも近づけるような授業づくりの研究と実践を、今年1年の研究を通して取り組んで行きたいと考えています。※学研の登録商標

授業づくりの研究・実践へのアプローチの方法

「ユニバーサルデザインの視点」を基盤として取り組む

「ユニバーサルデザインの視点」とは以下の2つの視点を考えています。

1 授業のユニバーサルデザイン (授業のUD)

特別な支援が必要な子も含めた全員の子が楽しく学び合い「わかる・できる」ことを目指す

授業のUD

「焦点化・視覚化・共有化」の視点で授業を作ること

教育のユニバーサルデザイン (UD)

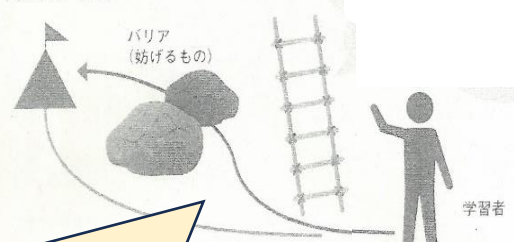
教室環境のUD

人的環境のUD

2 学びのユニバーサルデザイン (UDL: Universal Design for Learning)

GOAL
(ねらい・目標)

イメージ



学習者に障害があるのではなく、カリキュラム(ゴール、教材、方法・手段、評価の全て)のほうに障害があると考えた視点

この2つの「ユニバーサルデザインの視点」についての基礎研究を行ったり、「授業のUD」で補いきれないものを「UDL」の視点で捉え直してみたり、子供の認知特性の見取りのポイントや学習支援の方法などについても提案していきたいと考えています。

参考：『実践みんなの特別支援教育』(2019. 3)